

国語科学習指導案

日時：平成23年11月15日（火）5校時
学級：北上市立東陵中学校 1年A組
男子14名 女子9名 計23名
授業者：横井智子（東陵中学校）
共同研究者：所 慎一郎（鬼柳小学校）
菅野文江（上野中学校）

- 1 単元（教材）名 比較しながら読もう「クジラたちの声」（光村図書）
補助教材 「クジラたちの音の世界」（平成14年度光村図書）

2 単元について

（1）教材観

本教材は中学校で初めて説明的な文章を学習する単元において、「ちょっと立ち止まって」に次ぐ2番目の教材文である。「ちょっと立ち止まって」は一つの問題提起を軸に、図を例に日常生活へとももの見方や考え方を広げていく文章であり、「導入・本論・結論」の構成が簡潔平易であるため説明的文章の基本構成を学びやすい教材である。本教材の構成は、「ちょっと立ち止まって」の基本構成から発展し、問題提起を二つ挙げそれぞれの問いを解き明かす形で本論が展開される。本論展開が発展してはいるが、疑問形の記述である文末表現に着目し問題提起をとらえること、問いに対する答えに着目させることで構成をとらえられる文章である。中学1年生が説明的文章の基本的な特徴を学びやすい教材であると考えられる。

（2）生徒観

課題に真面目に取り組む生徒が多く、全体的に落ち着いた学習態度である。与えられた課題について解決しようと努力する姿勢はあるが、叙述内容を基に自分の考えを持つことは苦手である。「読むこと」については、文学的文章の大まかなあらすじをとらえること、説明的文章の全体の要旨をとらえることは比較的得意とするが、文章の叙述に即した分析的な読みを苦手とし、段落の要約や段落相互の関係をとりえる力が弱い。語彙量の少なさ、特に社会事象や科学用語などの漢語表現への苦手意識が説明的文章に対する読み取りの支障となっている。与えられた課題について解決しようと努力する姿勢はあるが、叙述内容を基に自分の考えを持つことは苦手である。

そこで、辞書を使った語句確認や新聞を読む家庭学習の習慣化を図ること、授業の際に語句表現を意識し、吟味する学習活動に取り組みせることで言語感覚を磨き、分析的な読みの力を高めたい。

（3）指導観

本教材では、説明的文章の基本構成である三つのまとまりを正しく理解させたい。段落ごとの要旨を正確に読み取って構成を考えられるようにしたい。その際、小学校の既習事項や「ちょっと立ち止まって」と比較させながら、文末表現や接続する語句に着目させ、生徒が明確な理由をもち構成を分けられるようにするとともに、基本的な説明的文章の構成や要素について意識付けを図り、今後、学習する説明的文章にも活用できるようにしたい。また、本校の研究テーマである「家庭学習との連動を図った授業」を踏まえて、ワークシートを用いて家庭学習との連動を図りながら、語句を正しく理解したうえで段落ごとの要旨や相互関係を考えられるようにしたい。特に本時においては、小学校の学習指導要領高学年の「読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」との系統指導をねらい、同じ筆者の作品である旧教科書教材「クジラたちの音の世界」と比較して読む活動を行いながら、本教材の「展開の仕方」や「表現の特徴」に気づかせ、筆者が記述を変えた意図を考えることで中学校第1学年「読むこと」の指導事項「エ 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ」力を身に付けさせたい。

3 単元の見目

【国語への関心・意欲・態度】

- ・論理の展開や表現の特徴をとらえ、自分の考えをもとうとしている。

【読むこと】

- ・文脈の中における語句の意味を的確にとらえて読むことができる。【ア】
- ・文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見を読み分け、要旨をとらえることができる。【イ】

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くができる。【イ（イ）】
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙に関心をもつことができる。【イ（ウ）】

4 単元の指導計画と評価規準（4時間扱い 本時4/4）

時数	学習内容	評価規準		
		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	通読し、大まかな内容をとらえて、構成を考える。	筆者の論を正しく理解しようと積極的に読み、根拠をもって構成を考えようとしている。	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、読んでいる。【ア】 文末表現や接続する語句に注意し、三つの構成を正しく分けている。【イ】	辞書を使いながら、語句の辞書的な意味と文脈上の意味とを考えて読んでいる。【イ（イ）】
2	構成を考え、問題提起への答え部分の要旨をまとめる。		文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見を読み分けて、要旨をまとめている。【イ】	
3	各段落の要旨をまとめ、段落の働き・関係をとらえる。		文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見を読み分けて、要旨をまとめている。【イ】	事象や行為などを表す多様な語句について理解し、語彙に関心をもって読んでいる。【イ（ウ）】
4 本時	二つの文章を比較し、表現の特徴をとらえ、効果や筆者の意図を考える。		二つの文章を比較し、展開の仕方・表現の特徴の違いと効果、筆者の意図について考えている。【エ】	

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・二つの文章の展開の仕方や表現の特徴について、自分の考えをもつことができる。

(2) 具体的評価規準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
読む能力	二つの文章を比較し、展開の仕方や表現の特徴の違いに気づき、効果について筆者の意図に触れながら考えている。	二つの文章を比較し、展開の仕方や表現の特徴の違いに気づき、効果について考えている。	ワークシートの上下段を読ませ、文末表現や段落の違いに注意しながらどちらの文章がよいか考えさせる。

(3) 本時の展開

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点 ○評価（・支援・留意事項）
導 入 3 分	1 前時の想起 2 課題の設定	課題プリントの比較例を確認する。	・事前に、二つの文章の違いを見つける際の着眼点を与えておく。 (展開の仕方、表現の特徴)
二つの文章の展開の仕方や表現の特徴の違いについて気づいたことをまとめよう。			
展 開 4 0 分	3 課題の解決 (1) 展開の仕方や表現の特徴に気付く (2) 表現のよさ(効果)について考える	二つの文章の違いについて自分が考えてきたことを発表する。 ・構成 ・問題提起の仕方(文末表現) ・導入の詳しさ ・言葉の使い方「エコロケーション」 ・結論のまとめ方 発表をもとに、違いによってどんな効果があるのかを考える。 グループで考えた効果について掲示する。	・生徒の発表をもとに、文章の違いについて観点別に板書する ○発言・プリント ・展開の仕方、表現の特徴の観点について意識させるようにする。 ・生徒が気付かない点については補説する。 ・効果をまとめながら、A・Bのどちらの文章がよいかをおさえさせる ○発言 ・展開の仕方や表現の特徴それぞれについて触れたい。 ・鉛筆と色ペンを使い分けさせ、自分の考えと友達の見解を区別できるように記入させる ○発言・プリント ・筆者はBからAに書き換えたことを伝える。 ・書き替えたことによる効果を踏まえ、筆者の意図について考えさせたい。
	4 課題のまとめ	書き替えの効果や意図についてまとめる。	・わかりやすさ、読者の興味・関心を高める観点等についてまとめる。
終 末 7 分	5 まとめ	自己評価と授業の感想を書く	・比較して読む活動についてという視点を与える。 ・数名に発表させ、本時の学習方法について意識化させたい。